

「やめっ…あん♡動くなっって言ってるでしょ…ばか…♡変態♡ああん…イイ♡」
杏奈ちゃんは甘い声を上げながら罵倒してくるが、その度にナカが締まってぷるぷる胸も揺れる。たまらない。

「杏奈ちゃんのおまんこも喜んでますよ！」

「うるさい、黙って！ああん♡またおっきくなってるうう♡イックうう♡」

杏奈ちゃんは俺を罵りながらも感じまくっているようで、俺の上で何度もいった。挙げ句、俺の顔に跨ってきて、自分でクリトリスをいじくり回しながら絶頂したのだった。何と言う破廉恥インスタクターだよ。

「はあ…はあ…これで少しは反省しましたか？」

「はい…すみませんでした…」

俺は全裸で精液と愛液塗れの杏奈ちゃんを見上げていた。

「全く、本当に反省する気があるんですか？」

杏奈ちゃんは俺を見下ろしてため息をつく。

「はい、すみません…」

「青木さん、私はあなたの事を思っ言っているんですよ？ジムに通っているのは、体力をつける為なんでしょう？なのにそんな風に女性をジロジロ見ていたら、筋トレどころじゃ